

北海道で起きている再エネ由来の環境問題について ～メガソーラーとソーラーシェアリング～



当別のエネルギーを考えるpart1

日時：2022年9月16日（金）14:00-16:00

場所：白樺コミュニティーセンター 大研修室

開会あいさつ 手代木 隆二氏

話題提供1 (30分)

「持続可能な当別町のための自然エネルギー系
山形 定氏（北海道大学工学研究院、NEPA理事長）

話題提供2 (30分)

「北海道における小水力発電の可能性と現状」

小野 尚弘氏（八雲水力発電株式会社 札幌支社、北海道札幌オフィス、大地とエネルギー研究所代表取締役、NEP

休憩

意見交換 (30分)

閉会あいさつ

主催：風力発電を考える当別町民の会
共催：NPO法人北海道新エネルギー普及促進会
NPO法人ビヨルクトゥーベツ

第3回 当別町民再エネ勉強会



日時：

2023年10月29日（日）13:30～16:00（開場13時）

会場：当別ふれあい倉庫 赤レンガ6号 JR当別駅となり

申込不要

勉強会テーマ

テーマ1 西当別風力発電事業についてお伝えしたいこと
講師：風力発電を考える当別町民の会 代表 手代木隆二氏

テーマ2 風力発電による全国、北海道で起きている様々な問題点
講師：一般社団法人 北海道自然保护協会 常務理事 佐々木 邦夫 氏

テーマ3 当別町のゼロカーボンに向けた最新の取り組み施策について
講師：当別町役場 経済部ゼロカーボン推進室 参考 吉野 和宣 氏

山形 定（北大工 地域環境研究室）

全国的問題になっている 釧路湿原メガソーラー



環境省釧路湿原野生生物保護センターから200m南の北斗地区で進められているメガソーラー建設の現場。工事は一時停止されている（写真：近隣の土地管理者がドローンを使って撮影）

ラムサール条約登録湿地、釧路湿原に太陽光発電施設が押し寄せている問題で、造成工事中の現場を撮影した動画投稿が発端となり、著名人によるSNS発信によりメガソーラー開発への批判が全国に広がった。

釧路市では環境団体や行政の取り組みが実を結んで新たな規制条例が成立、施行されたものの、開発の実態は新たな様相を見せている。鶴間秀典・釧路市長が国に解決策を訴え、政府や国会が法制度の検討に入った。
<https://toyokeizai.net/articles/-/914511?display=b>



道路の反対側には太陽光発電所

脱原発・脱炭素の地域づくりパンフ

(2025.4、アクトビヨンドトラスト助成)

大型・域外資本による開発と条例

- 大規模発電所は初期投資が大きいため、資金力のある大企業が手がけました。どこで発電しても同じ価格で売れるため、収益性の高い地域には、地域外から投資がなされ、地元住民にはその利益は還元されないまま、健康被害・騒音・景観悪化などの負の効果のみが現れました。
- 大規模開発では自然の生態系にも大きな影響を与えます。山の斜面や湿原の近くに太陽光発電所が作られたり、山の稜線にその山よりも高い風力発電所が計画されており、地域住民の反対運動も各地で起きています。
- 地域にある自然エネルギー資源は地域住民が自分たちの生活のために使うことが前提です。このような考えで、作られたのが長野県飯田市の条例です。そこでは「飯田市民が主体となって飯田市の区域に存する自然資源を環境共生的な方法により再生可能エネルギーとして利用し、持続可能な地域づくりを進めることを飯田市民の権利とする」とうたわれています。

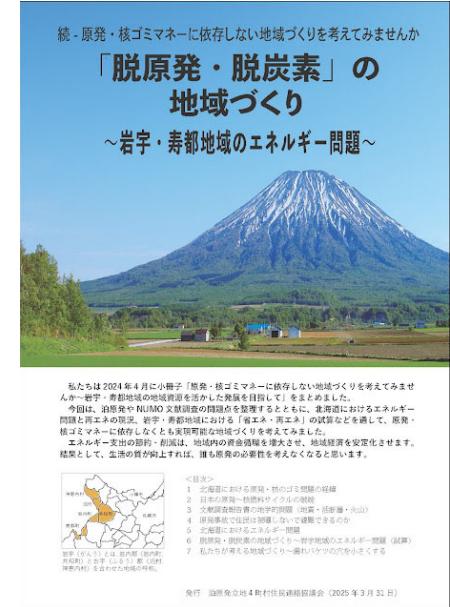


釧路湿原の太陽光発電所
(北海道新聞 2024. 3. 29掲載)

統一原発・核ゴミマネに依存しない地域づくりを考えてみませんか

「脱原発・脱炭素」の地域づくり

~岩字・寿都地域のエネルギー問題~



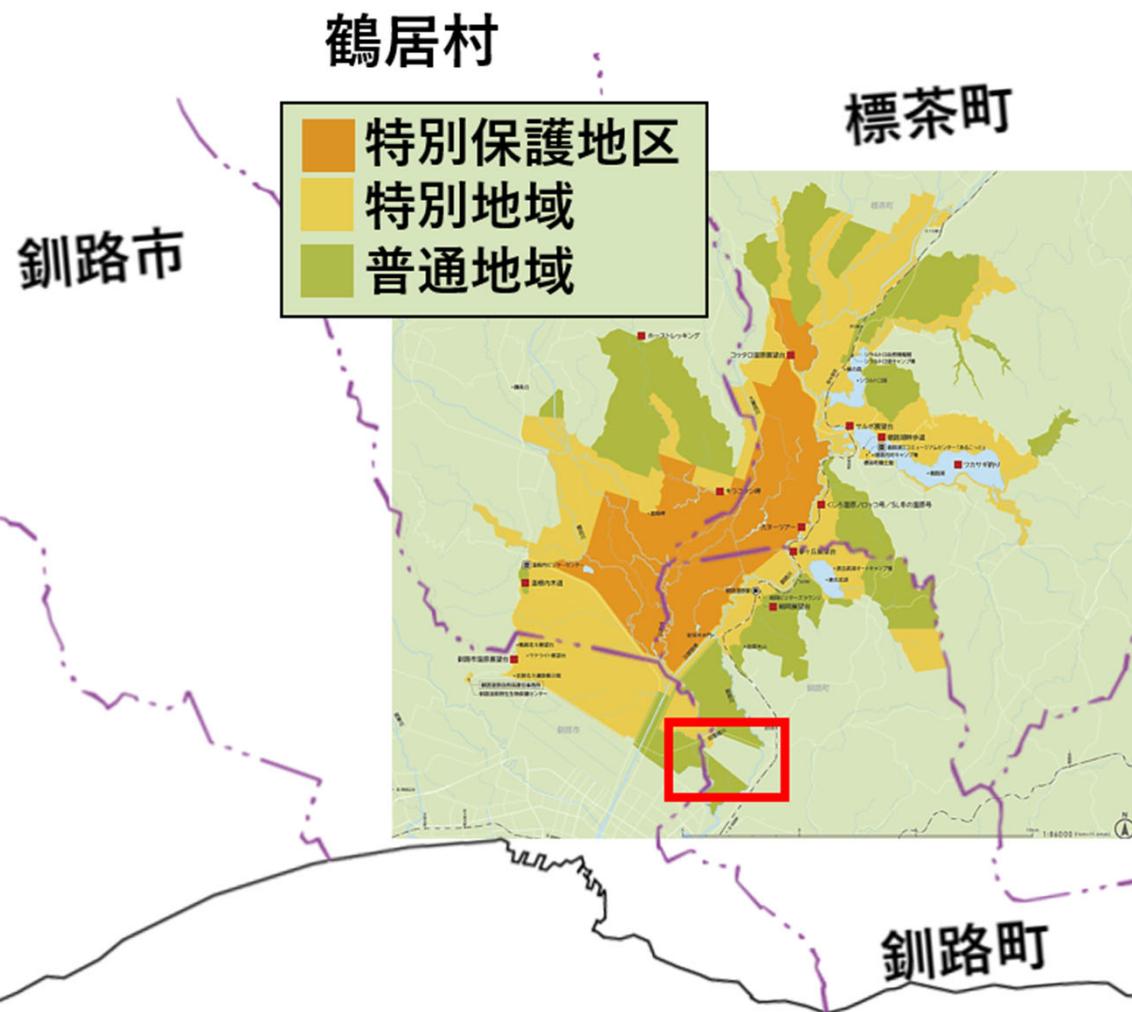
私たちは2024年4月に小樽市「廃棄・核ゴミマネに依存しない地域づくりを考えてみませんか~岩字・寿都地域の地域資源を活かした地域を目指して~」をまとめました。
今回は、沿岸発電NUNAK文部省の問題を購買するとともに、北海道におけるエネルギー問題と再エネの現状、岩字・寿都地域における「省エネ・再生エネ」の状況などを通じて、廃棄・核ゴミマネに依存しないとも実現可能な地域づくりを考えてみました。
エネルギー支出の削減・削減は、地域内の資源消費量を増大させ、地域経済を安定化させます。結果として、生活の質が向上すれば、誰もが喜ぶことだと思います。

◎目次

- 1 北海道における廃棄・核のゴミ問題の紹介
- 2 廃棄・核ゴミマネの問題
- 3 文部省が抱く省エネ・再生エネルギー問題
- 4 両島事例で改めて認識してみて顶けるか?
- 5 北海道におけるエネルギー問題
- 6 省エネ・再生エネルギー問題について骨子問題をまとめる
- 7 私たちが考える地域づくりへ取り組むべきことを小さくする

発行 沿岸発電地4町村住民連絡協議会(2025年3月31日)

釧路湿原国立公園エリア



Googleマップ®

釧路マーシュ&リバー



遠矢
遠矢

とおや恵公園

新路温泉道路
新路温泉道路

くるみ公園

河畔1号公園

山田車輛

わらび公園

釧路陵墓公園

(南)二チエイ塗装工業

オンコ園

旧雪裡川

国立・国定公園内における
太陽光発電施設の審査に関する
技術的ガイドライン

令和4年3月

環境省

湿原のメガソーラーが受賞?!



私たちについて 事業内容 事例紹介 発電事業の取り組み SDGsの取り組み 地域との歩み 社員紹介 企業情報 ニュース お問い合わせ



【導入活動部門】新エネルギー財団会長賞

短周期出力変動緩和対策を講じた大型蓄電池システムの導入

▪ 主要な発電所 すずらん釧路町太陽光発電所



北海道釧路郡 (発電出力: 92.2MWp)

https://gpdj.jp/planning_and_development/case

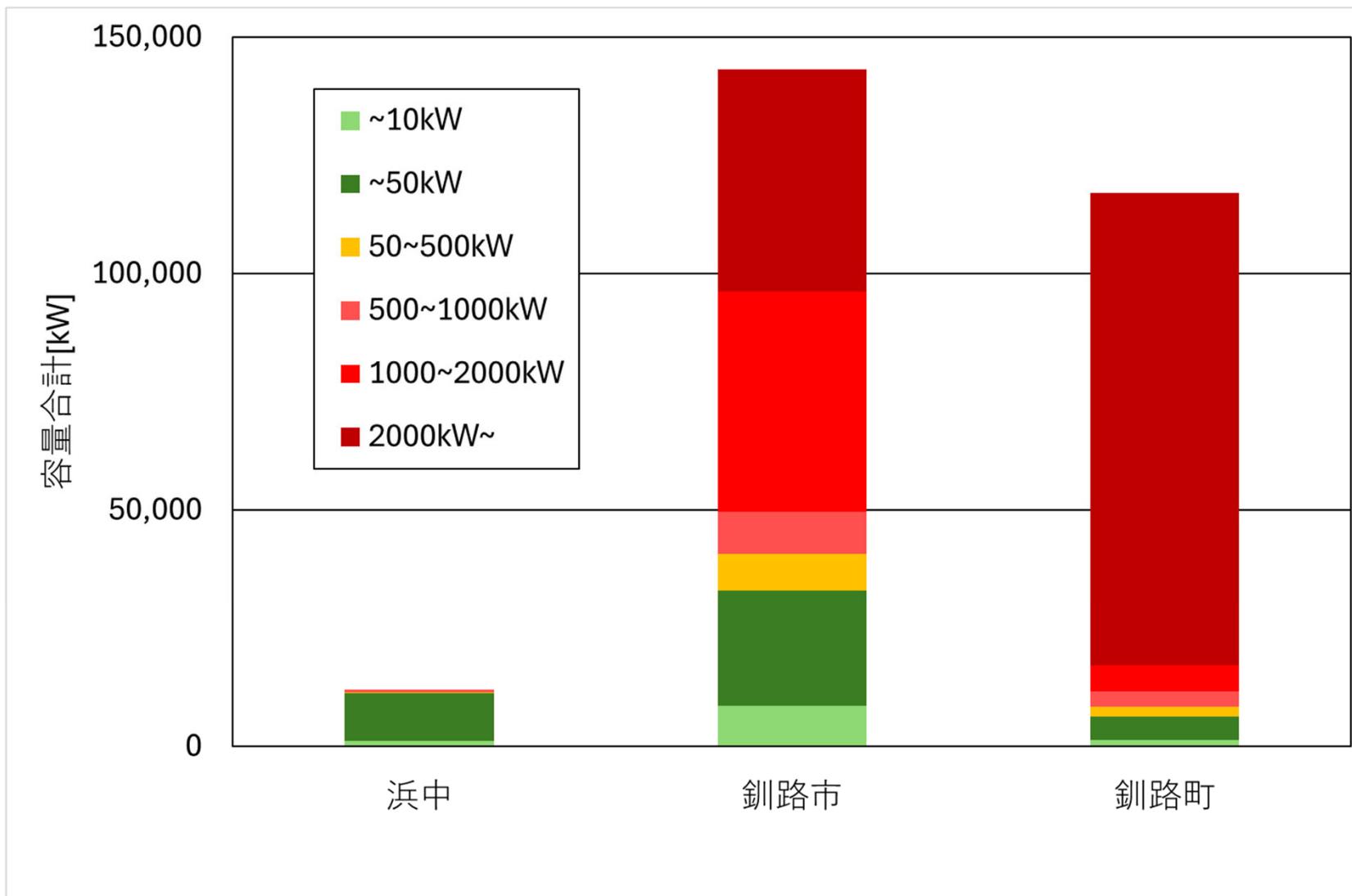
東急不動産、三菱HCキャピタル、日本グリーン電力開発が共同出資するGPDすずらんソーラー株式会社が事業主体です。同社は、町民活動や地域活動の向上に向けて、地元の小中学校やスポーツ施設・コミュニティ施設で使用する備品や防災備蓄品等の支援を行い、2021年12月には釧路町功労賞並びに善行賞を受賞しました。



「やちびかソーラー」の愛称で呼ばれる釧路町トリトウシ原野太陽光発電所。年間発電量は釧路町の世帯の半数の消費電力に相当する約1900万kWh

一般財団法人新エネルギー財団が主催「令和元年度新エネ大賞」において、大林組と三菱電機、G S ユアサが北海道釧路町の釧路町トリトウシ原野太陽光発電所で行っている「短周期出力変動緩和対策を講じた大型蓄電池システム」の導入が「新エネルギー財団会長賞」を受賞しました。

浜中町・釧路市・釧路町の 規模別太陽光発電所容量



浜中町の太陽光発電



JA浜中町 太陽光発電導入の経過

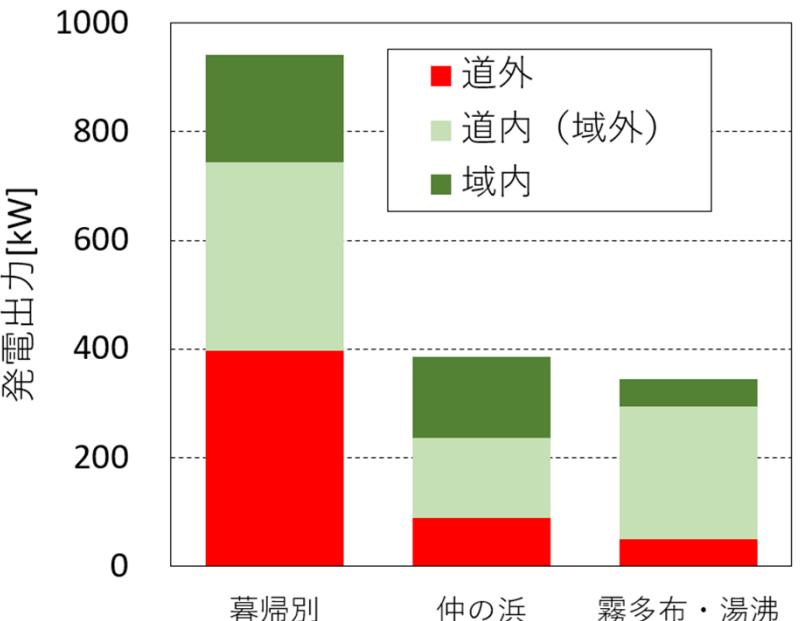
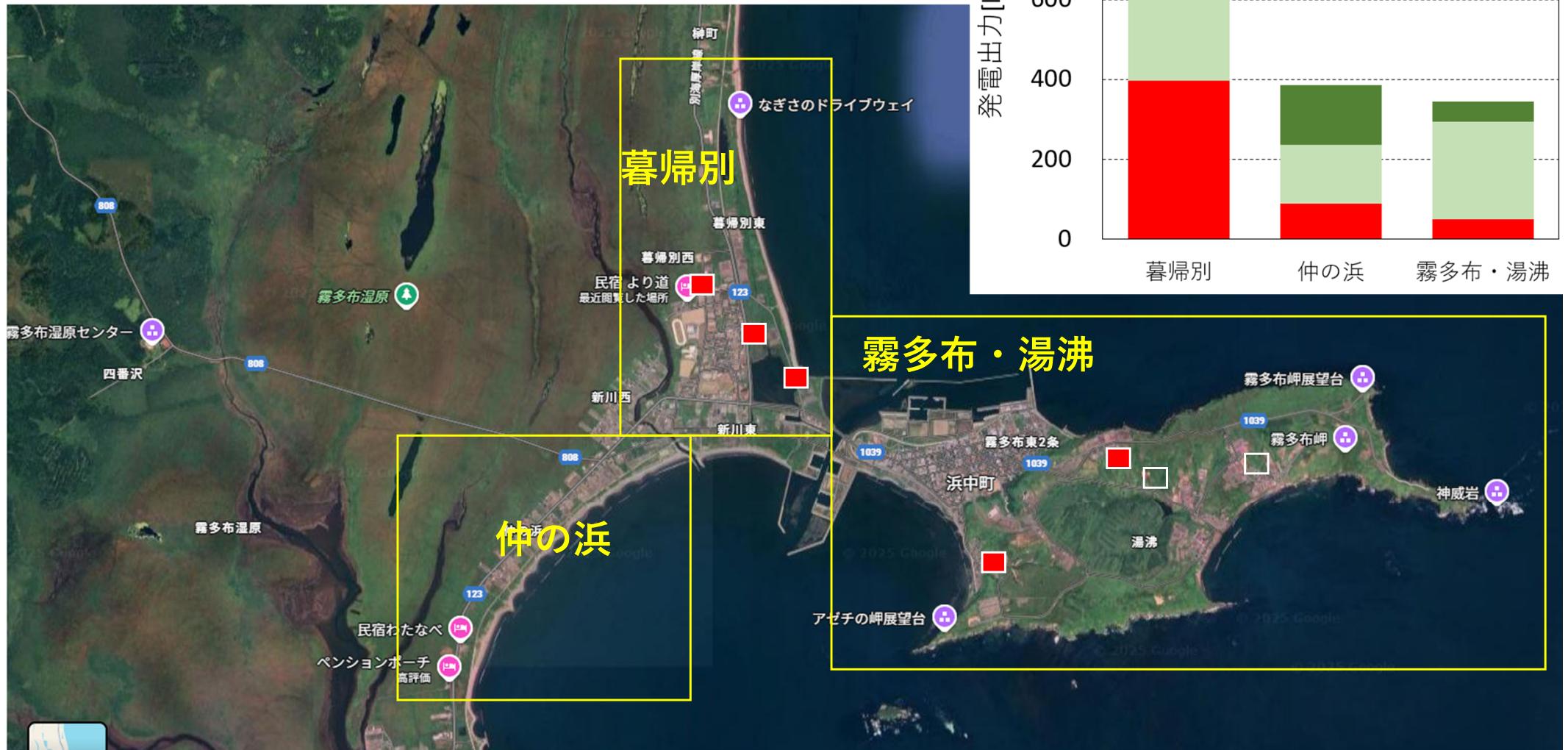
- ①各農家へ、太陽光発電設置の意向確認・取りまとめ
- ②各農家に分散して設置。1戸毎に設置箇所の確認
- ③2010年度 農林水産省へ中山間地域等直接支払制度補助金申請
(2000年に交付金申請のために207戸で組合を結成済み)
設置戸数：105戸、10kW/戸 合計1050kW[10kW×105戸]
- ④施工、電力業者との打合せ、⑤施工



暮帰別



霧多布エリア



霧多布・湯沸

当別の、当別住民による、自分たちのための 自然エネルギー利用をどう進めるか

当別版「地域の、地域による、
地域のための自然エネルギー」

- ・自然エネルギー開発はどうあるべきか
- ・道内における小水力発電の状況

山形 定

北海道大学工学研究院 地域環境研究室、
NPO法人北海道新エネルギー普及促進協会、
NPO法人北海道地域・自治体問題研究所

再生可能エネルギー 地域を考える基礎講座 2013.5.14 Seminar

■テーマ：再生可能エネルギー

国民の暮らしや経済を支えるエネルギーについて、その確保と効率的な利用が大きな課題となっています。特に、北海道は、積雪寒冷地であるが故に化石燃料の多消費地ですが、一方で、太陽光を始め、地熱や風力、水力、バイオマスなど豊富なエネルギー資源を有しています。そこで、未利用のまま残されている再生可能エネルギー資源を利用し、北海道のエネルギー自給率を高めることを考えてみましょう。

講 演 15:00～15:50

「地域の、地域による、地域のための 自然エネルギー利用」

北海道大学大学院工学研究院 環境創生工学部門教員
NPO法人北海道新エネルギー普及促進協会 理事長
山形 定 氏(工学博士)

事例紹介 16:00～17:20



●地熱発電 内山 洋氏

(北海道電力(株)本店広報部)



●小水力発電 田中 正氏

(株)日立パワーソリューションズ



●家畜バイオマスガス発電 吉田 弘志氏

(鹿追町)



●風力発電 岩谷 公明氏

(株)コスマセカニクス

5月14日(火) 15:00～17:20

会場／京王プラザホテル札幌 B1 プラザホール

札幌市中央区北5条西7丁目 Tel.011-271-0111

お問い合わせ先／NPO法人北海道振興機構事務局

Tel.011-736-1821

参加無料

主催／特定非営利活動法人 北海道振興機構

後援／特定非営利活動法人 北海道新エネルギー普及促進協会 (NEPA)

財団法人 北海道公営企業振興協会

どんなことができるか

余市エコビレッジのソーラーシェアリングと電気自動車

発電事業者 TERRA

出力 5.94kW (165W × 36)

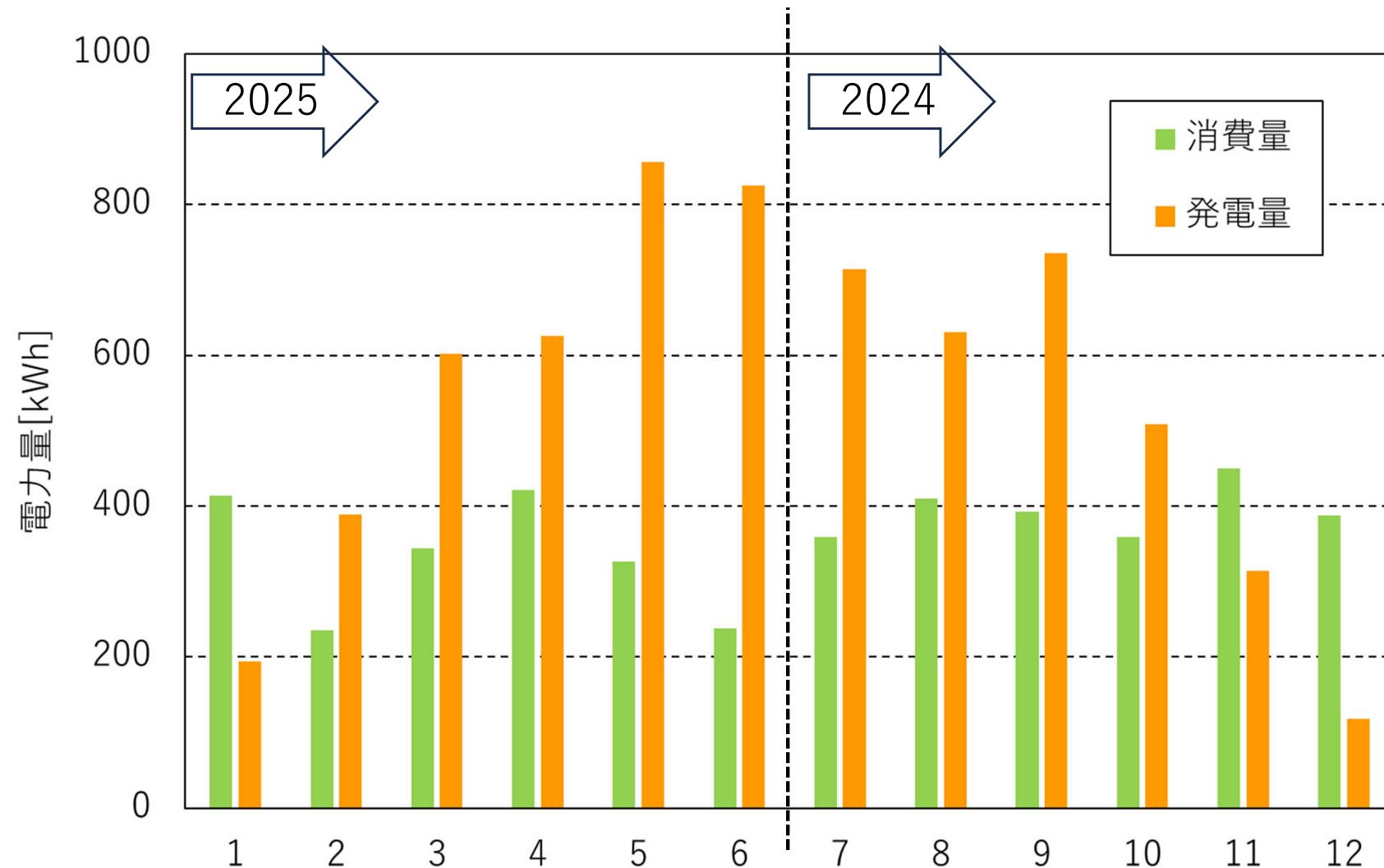
運転開始 2023/12

所在地 余市町登町



エコビレッジ月別の発電量・消費量

- 2024年7月～2025年6月までのデータ
- 冬季（11月～1月）を除けば消費量よりも発電量が多い



EV導入でガソリン使用量半減

- ・ガソリン使用量2024年分（上）
- ・2025年分は、EVによるガソリン減少量（緑）を加算（下）
 - ・2025年は運転手が増え自動車利用量・ガソリン使用量が増加
 - ・給油のタイミングで、月の使用量が一月分前後する可能性あり
 - ・「春から夏にガソリン使用量が増加、8・9月に最高」の傾向は類似
 - ・EV導入で7-10月のガソリン使用量は半減

